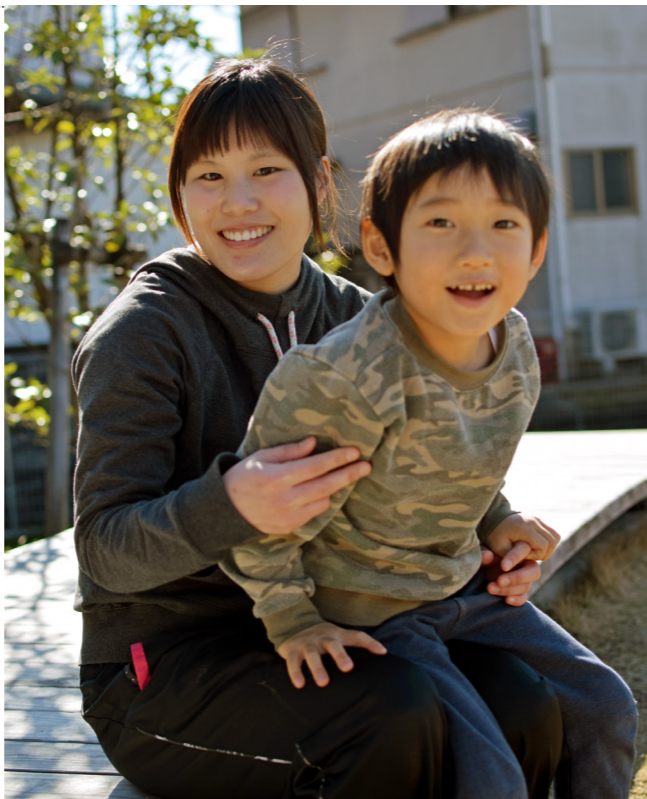


保育士としてやまなみ保育園で働いている富岡さん（写真左）。保育士を目指したきっかけを、「中学生の頃に、授業で保育体験があった、子どもと触れ合うのは良いな、と思ったのが始まりです」と、振り返ります。保育士という仕事について、「子どもにケガをさせたら、と思うと目が離せず、気が抜けない仕事ではありますね」と、話します。しかし、「大変なこともあります、なにより楽しいですね。行事や運動会、発表会などで子どもの成長を感じると、すごい

な、と感動するんです」と、富岡さんは目を細めます。職場についての質問には、「同僚は、みんなやさしいです。自分が保育園の年長だったときの先生と、いま同じ職場で働いているので、不思議な感じですね」と、はにかみます。今後の目標について、「この仕事をずっと続けたいです。尊敬する母が、仕事と子育てを両立していたので、私も将来はそうありたいと思っています」と、充実した表情で話してくれました。



勤務先 やまなみ保育園
とみおか あやの
富岡 彩乃さん
(21歳・深谷)

将来は尊敬する母のようになりたい

キャプテンとして成長したい

小学1年生のときに卓球をはじめた西川くん。しかし、そのときは半年でやめてしまいます。心残りから、中学生でもう一度チャレンジしようとして、卓球部に入部。昨年夏には、部内の投票によりキャプテンに指名され、16人の部員を引っ張ってきました。部内では、毎月リーグ戦が行われています。1部から3部に分かれ、入れ替え戦もあります。「部員はチームメイトであり、良いライバルでもあります。お互いに教え合いながら、チーム力を高めたいです」と、西川くんは意欲を見せます。

若狭地区秋季新人競技大会は団体で2位と、あと一步のところで県大会出場を逃して涙を飲みました。次の大会での雪辱を誓って、チーム一丸となって練習に取り組んでいます。「卓球は個人競技ですが、団体戦のレギュラーは、みんなの思いを背負って出場します。勝つても負けても、試合で全力を尽くせるように、練習に励みたいです」と、話す西川くん。「応援してくれる家族のためにも、選手としてもキャプテンとしても成長していきたいです」と、力強く目標を語りました。



男子卓球部 キャプテン
にしかわ たくみ
西川 拓海くん
(小浜中学校2年生)

個人の能力よりチームの能力を

40人近くが所属する小浜第二中学校男子バスケットボール部のキャプテンは、武田くんが務めています。武田くんは、保育園児の頃からバスケットボールに親しんでいて、競技歴は10年近くになります。「初めてシユートが入ったのは、小学1年生の時です。すごくうれしかったのを今でも覚えています」と、当時を振り返ります。ポジションは昔から、司令塔の役割を担うポイントガード。「指示を出したりする大変なポジションです。パスが基本になるので、パスをして味方が

シユートを決めてくれた時はうれしいです。同じポジションのプロ選手である田臥勇大選手を尊敬しており、映像を見て技の研究もしています。大所帯のため、チームのまとまりが今後の課題。武田くんは、キャプテンとして、意識的に大きい声を出して、チームをまとめようと奮闘しています。チームの目標は、地区大会で1位になること。そのために、「チームプレイなので、今後は個人の能力よりも、チームの能力をもっと上げたいです」と、先を見据えて練習に励みます。



男子バスケットボール部 キャプテン
たけだ りょうか
武田 亮玖亜くん
(小浜第二中学校2年生)

「へしこ」の可能性を共同研究

県立大学小浜キャンパスで水産食品利用加工を専門とする松川さん（写真左）。へしこの研究を20年続ける伊藤さん（右）と、平成26年から『低塩へしこ』の共同研究に取り組んでいます。「保存食として塩分が高いのがへしこ本来の姿ですが、現代の消費者が受け入れやすいように低塩化できないかという発想からスタートしました」と、伊藤さんは話します。松川さんのアイデアで、通常の鯖へしこを特別配合のぬかに再度漬け込み、温度と湿度が安定する天然の

貯蔵庫『雪室』で保管することで、塩分を半減させることに成功しました。松川さんは、「去年の実験で味や成分は維持して塩分だけが抜け、さらに香りも良くなるという研究結果が出ています。これなら子どもにもたくさん食べてもらえます」と、笑顔を見せます。現在は、市内事業者と連携して低塩鯖へしこの商品化を目指しています。二人に意気込みを尋ねると、「へしこの新しい可能性を発展させたいです。研究を重ねて地域に貢献していきたいですね」と、話してくれました。



福井県立大学 海洋生物資源学科
准教授 **松川 雅仁さん** (50歳・一番町)
講師 **伊藤 光史さん** (45歳・高浜町)

三丁町

『三丁町』は小浜香取・飛鳥にある県内に残る数少ない茶屋町です。紅柄に染められた千本格子の家が軒を連ね、日によっては三味線の音が流れる情緒豊かな通りの一つです。三丁町の町並みで目を引くのは、家の軒にぶら下がっている厄除けの申。鮮やかな朱色の申と、建物の色のコントラストが写真映えるためか、カメラを構える観光客の方をよく見かけます。7月に行われる「庚申堂」の祭りと同日開催の「町家 de フェスタ」は浴衣姿で三丁町を歩く人の姿が町家の雰囲気盛り上げます。また9月の放生祭で三丁町の細い道を各区の演し物が通る様は圧巻です。夕暮れ時の三丁町の町並みは、玄関先に灯るあんどんの明かりが郷愁を誘い、一見の価値があります。



【問い合わせ】
 若狭おばま観光案内所 ☎ 52・2082

【アクセス】
 小浜市香取・飛鳥
 JR 小浜駅から徒歩 15 分
 舞鶴若狭自動車道小浜 IC から車で 17 分
 (文と写真: 地域おこし協力隊 アイザワ)

健康長寿のススメ

【関わりのポイント】

- ①驚かせない
 後ろから大声で話しかけるのは禁物。
 正面から近づいて話しましょう。
- ②急がせない
 ゆっくりと話し、本人の言うことを繰り返して意思確認しましょう。
- ③傷つけない
 叱りつける、頭ごなしに否定するなど自尊心を傷つける行為は禁物です。



などが認知症の人の特徴です。

- ・ 正常な状態と認知症の状態が混在する
- ・ 失敗を知られないようにその場を取り繕う
- ・ 家族など、身近な人に対して症状が強くなる傾向がある

知って安心 認知症⑤

認知症の人への接し方

今回は、認知症の人の特徴と、接し方を紹介します。

認知症の人の特徴は？

- ・ 新しいことはすぐに忘れる
- ・ が、昔のことは覚えていて
- ・ 自分にとって不利なことは隠そうとする

例えば・・・

Q. お金や通帳が盗まれたと疑って騒ぐときは？
 A. 決して責めず、本人が見つけ出せるように、「ここを探してみようか」と促しましょう

周りの人からすれば不可解な行動でも、認知症の人にとっては、本人なりの行動の理由が必ずあります。
 制止したり叱ったりせず、関わりポイントを意識して接しましょう。

● 次回のテーマ
 「広げよう 認知症予防と支援の輪」
 ■ 問い合わせ 地域包括支援センター ☎ 64・6015

イチ押し！トップアスリート

山から見る美しい景色を満喫

50 年以上の歴史を持つ小浜山の会。嶺南在住の登山愛好家 43 人が所属し、毎月 2 回月例登山を行うなど、積極的に活動しています。会長の古谷さんに山登りの魅力を聞きました。

「山から見る美しい景色を満喫できるというのが一番。健康づくりにもなるし、キャンプや高山植物の観賞、写真の撮影など色んな楽しみ方ができるのが登山の魅力ですね」。

古谷さんが登山を始めたのは 20 代前半。年上のいここに誘われて、山の会に入り、百里ヶ岳（小浜と高島市

の県境や劔岳（富山県）に登ったことで、山が好きになったと話します。

「劔岳に登ったとき、夏でも雪が残る『雪渓』を初めて見て、とても感動したことを今でも覚えています」。

これからの目標を尋ねると、「登山の楽しみ方を多くの人に広めたいです。ただし、初めての人だけで山に登るのはとても危険なことです。山の会に入って、経験のあるメンバーと一緒に登ってもらえると嬉しいです。私自身も元気な限り登り続けていきたいです」と、笑顔で話してくれました。



小浜山の会 会長
 古谷良治さん
 (64 歳・上中井)

アート&カルチャー

すごく澄んだ、張りつめた音

40 年ほど前に結成された千鳥会には、現在およそ 10 人の会員がいます。代表を務める藤本さんは、自宅で会員に個別指導を行っています。

藤本さんは、18 歳の頃に箏曲を始め、それ以来 50 年以上に渡って親しんでいます。「今でも定期的に舞鶴市の先生のもとへ習いにいっています。満足して技術の向上を止めてしまっただけはないと思うんです」と、向上心を持ち続けて、箏曲に向き合っています。

箏曲の魅力を伺うと、「何よりお箏の音が好きなんです。すごく澄んだ、



千鳥会（箏曲）代表
 藤本靖子さん
 (73 歳・津島)

張りつめた音だと思えます」と、音色の美しさを表現します。

藤本さんは、「まず健康が大事ですね。自分や家族が健康でいられるので、箏曲に励むこともできます。弾く時間がある、というのはありがたいことです」と、境遇への感謝を口にします。

「箏曲は年配の方でも新しく始められる楽器です。子どもや若い人も含めて、一人でも多くの人にお箏に親んでほしいですね」と語る藤本さん。同会に興味のある人は、藤本さん ☎ 52・3966 までご連絡ください。